

京都大学  
舟橋教授・講演会へ参加！  
学生も<仮説実験授業>を歓迎している  
嬉しいけど…ビックリ！



■「科学入門教育」としての仮説実験授業・・・

「キッカケの論理」を使って、京都大学で、<なわて仮説実験授業研究会> 6月例会（6/21）を行いました。（司会・音田）「折角の機会だから、<子ども教室>の皆さんにも呼びかけて小規模の講演会にしよう！」と思っていたのですが、実現できませんでした。今回は是非、「思いが実現できるようにしたい」と思います。今日は、学生の感想文から「科学入門教育のたのしさの一端」をご覧くださいいただければと思います。（生徒名は記載しません）

\*\*\*

“珍しい体験です。”

理 M2 地球惑星科学

講義で楽しさを評価するというのも珍しい体験です。教職科目ならではのことですが、全体的に本当に楽しむことができました。でも小中学生からすれば、その評価が全てと言っても過言ではありません。彼らはまず勉強に興味がないので、いかに興味を持たせるかが重要です。理科ではその点、他教科に比べて、やり方によっては可能性が広がる教科だと思います。だからこそいかに楽しくできるかというのを、教師は考えていく必要があります。

でも楽しいという評価はある意味では危険です。楽しいと意欲が湧きやすく、学びを理解しやすいのは事実ですが、ふざけてしまったりはダメだし、授業や教師を軽んじてしまう可能性もあります。楽しさの質にこだわるのも重要だと思います。楽しい授業に伴い、理解度も上がっていかねば意味がありません。日々の「楽しい」を集めつつ、定期的にテストなどで「理解度」を測る。そうして2軸を連動させて授業のクオリティを評価していくのが重要だと思います。

“弱気ながらも自信を持って言えるのは… ”

理 4 生物物理系

学校教育から離れて久しいからかはわからないがはじめから比較的違和感なく受け入れられた。アインシュタインが述べたように、教育は学校で学んだことを一切忘れてしまった時に、なお残っているものだと思う。つまりは、楽しかったり悔しかったり自分から主体的に取り組んでこそ得られる感情に付随するものではないだろうか。

授業で学んだ知識はいずれ忘れてしまうと思うので（自分がそうであったように）「ころりん」の教訓のような何かを得てほしい。

今のところ私が伝える事ができると弱気ながらも自信を持って言えるのは「学問の楽しさ」なのでそれが伝わればいいかなと思う。だからやはり生徒には授業が楽しかったかどうかを聞きたい。

## “授業観や教育観が大きく変わりました。”

理3 物理系

これを読んで、改めて「楽しい授業とはなにか」「自分にとって意味のある授業はなにか」ということを考えました。仮説実験授業は「楽しく学ぶ」ためのものだと思います。「楽しく学ぶためにはどうすればよいか」という問いに答えるのは、簡単なようで難しいと思います。学校では、「学ぶ」というのはそのほとんどが押し付けられているものであり、つまらないもの・嫌なことだと思います。その「学び」を楽しくするというのは、とても難しいことです。仮説実験授業は、自分で受けてみてよく分かったことですが、楽しく学べるものだと思います。学校の授業は、「わかって当たり前」という雰囲気があると思います。分からないのはその生徒の努力が足りないからであったり、急いでいるからというふうに考えられていると感じます。しかし、仮説実験授業はそのようなプレッシャーはなく、「分からなくても楽しい」と思えるものでした。大学まで「勉強は分かるから楽しいのであって、分からなければ楽しくない」と思っていたので、初めて仮説実験授業を受けたときは、「こんな楽しい理科の授業があったのか」と驚きました。

仮説実験授業は、科学の楽しさが味わえるだけではなく、そこでした経験が日常生活にも良い影響を与えるような気がしました。仮説実験授業は「評価論」とも合わせて、自分の授業観や教育観が大きく変わりました。ここで、仮説実験授業を知り、体験することが出来て良かったです。

## “生徒が考える力を養える ”

人環 D1 有機化学

この内容は共感できる場所が多かった。「子どもはおとなから押しつけられることがきらい」とか、「おとなが昔の時代のことしか知らないために子どもたちと意見が合わない」、というのはその通りだと思う。仮説実験授業では、あまり押しつけにならないように学習が工夫されている。また、子ども同士が議論するのは非常に重要なことである。これからは教師主導の一斉授業だけでは授業は成り立たない、とよく言われるが、仮説実験授業では生徒が考える力を養えると思う。

また、予想を集計した時に、一人とクラスの残り全員、という分布になった際の話は興味深かった。私も間違えるのは嫌だし、少数派だと心細い。でも、これをやり遂げた子はしっかりと自分の信念を持っているし、小学生でも周りの児童が感じるものがあるみたいだ。このような経験も、科学を学ぶこと以外の仮説実験授業の魅力だと感じた。

7月27日・第四回<法円坂子どもフェスティバル>申込み状況

締切り7月14日・定員200名

**★6月25日現在、206名です！**

★例年の欠席者数を予想して、220名までは受け入れる予定ですが、全体<定員>は超えてしまいました。皆さんに問い合わせがあった場合、「どのクラスも満員になった！」とお話してください。(詳細は、事務局の川端様へ)どうぞよろしくお願いします。